

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370831

研究課題名(和文) 出土文字資料と現地調査による河西回廊オアシス地域の歴史的構造の研究

研究課題名(英文) Study on the Historical Structure of the Hexi Corridor Oasis Area by Unearthed Textual Material and Field Survey

研究代表者

坂尻 彰宏 (Sakajiri, Akihiro)

大阪大学・全学教育推進機構・准教授

研究者番号：30512933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、河西回廊オアシス地域を「山地 水系 オアシス」の単位にとらえ、山地とオアシスからなる当該地域の歴史的構造を解明することを目的に推進し、以下の3点の主な成果を得た。(1) 出土文字資料を調査し、当該地域の歴史的構造を解明するための材料を得た。(2) 当該地域の景観調査と遺跡調査を行い、情報を整理した。(3) 文字資料と現地調査の成果をワークショップや成果報告書でまとめ、当該地域の歴史的構造についてのモデルを構築する見通しを示した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we aimed to clarify the historical structure of the area consisting of the mountainous region and the oasis by capturing the Hexi Corridor Oasis area as a unit of "Mountainous area - Water system - Oasis", and so far obtained the following three main results.

(1) By investigating the unearthed textual material, we got the materials to elucidate the historical structure of this area. (2) We conducted a landscape survey and survey of ruins in this area and organized the information. (3) We summarized the textual data and results of the field survey in the workshop and the outcome report, and showed the prospect of building a model on the historical structure of the area.

研究分野：東洋史，中央ユーラシア史，敦煌学

キーワード：河西回廊 オアシス地域 出土文字資料 現地調査 歴史的構造 山地 水系 オアシス

1. 研究開始当初の背景

中国西部の河西回廊のオアシス地域は、文字通り東西を結ぶ「回廊」であると同時に、山地の遊牧民とオアシスの農耕民がすぐ近くで共存するユニークな特徴を持っている。交通・交易の保護や生活物資の供給を軸にした遊牧民とオアシス民との間の共生関係は、中央ユーラシアの歴史を動かす原動力になったと考えられており、当該地域はこの共生関係を具体的に明らかにする上で、格好の研究対象である。

しかし、河西回廊の歴史的意義については、「回廊」の名称どおり、東西方向の交通や交易が強調され、いわば「ヨコ方向」の役割が主に取り上げられてきた。当該地域が中華王朝の西方進出や仏教等の外来文化伝来の重要なルートとして位置づけられてきたからである。

その一方で、河西回廊のオアシスと山地との南北の関係、いわば「タテ方向」の結びつきについては、十分な検討がなされてこなかった。たとえば、当該地域の馬、牛、羊、ヤギ、ラクダ等を対象とする牧畜は、山地、オアシス、砂漠などの環境に応じて展開しており、こうした環境の組み合わせを理解するうえで大きな手がかりとなる。しかし、オアシスやその周辺の牧畜は、農業や交易に比べて二次的な要素として扱われ、歴史研究の分野ではほとんど無視されてきた。また、農業や交易に関しても、砂漠に囲まれた閉鎖的な環境下での農業生産や遠隔地との交通や交易に注意が向けられ、山地と水系で結ばれた当該地域の構造が意識されることは稀だった。つまり、山地の遊牧民とオアシスの農耕民との関係や山地と水系が作る環境をオアシスの生活や土地利用のあり方、あるいは人やモノの移動と関連づけて考察する実証研究はなされてこなかったのである。

本研究の代表者は、このような背景にもとづいて、出土文字資料と現地調査を組み合わせ、当該地域の歴史的構造を「タテ方向」の結びつきで捉えることを着想した。

なぜなら、まず、当該地域の研究では敦煌文献やカラホト文献などの豊富な出土文字資料が利用可能だからである。また、現地の景観や遺跡の状況を確認することで、出土文字資料からは得られない情報を補い、河西回廊オアシス地域の歴史的構造に対する理解を深めることができるからである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、河西回廊オアシス地域を「山地 水系 オアシス」の単位でとらえ、山地とオアシスからなる当該地域の歴史的構造を解明することであった。主な研究材料としては当該地域で発見された出土文字資料を用い、さらに現地調査の成果を取り入れることを目指した。研究対象とする時期は、研究材料の豊富な9～13世紀前後を中心とし、河西回廊の地域全体の状況に目を配りつつ、中央ユーラシアの他の地域にも応用可能なひとつのモデルを構築することを目標とした。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、国内外の出土文字資料の調査と中国での現地調査とを行い、その成果を取りまとめた。

まず、国内外で敦煌文献を中心に出土文字資料の調査を行った。国外では、ロシア・サンクトペテルブルク・東方文献研究所に、連携研究者2名が訪問し、敦煌文献ならびにカラホト文献の調査を行った。また、中国・北京・国家図書館では、連携研究者1名が敦煌文献の調査を行った。国内では、大阪・杏雨書屋（武田科学振興財団図書資料館）の敦煌文献コレクション（敦煌秘笈）を代表者と連携研究者1名が調査した。

次に、中国での現地調査としては、河西回廊地域のオアシス～山地の環境・景観調査と遺跡調査とを行った。環境・景観調査では、2014年に敦煌周辺の党河水系と疎勒河水系、ならびに張掖周辺の梨園河水系と黒河水系を調査した。調査では各水系の上流にあたる山地から下流のオアシスまで一貫した観察を行った。同時に各水系沿いの城址遺跡を調査し、山地からオアシスまでの地域を一帯と

して把握することに努めた。あわせて、地域の信仰の場として重要な位置を占めた莫高窟・榆林窟等の石窟寺院についても、2013年と2015年に関連する銘文や図像の調査を行った。

さらに、これらの調査研究の成果を検討する場として、「出土文字資料と現地調査による河西回廊オアシス地域の歴史的構造」と題するワークショップを開催した(2015年9月26日、於 大阪大学)。ワークショップでは、代表者と四人の連携研究者が報告を行い、河西回廊オアシス地域の歴史的構造を環境と地域社会、交易と文化交流、統治のあり方等の観点から検討を加えた。また、討論のコメンテーターとして馮培紅氏(中国・浙江大学・教授)と白玉冬氏(中国・遼寧師範大学・教授)を招聘し、聴衆も交えて議論を深めた。

最後に、研究成果報告書を作成し、公開した。上記のワークショップでの議論をも踏まえ、代表者と連携研究者の研究内容をまとめて、研究成果報告書『出土文字資料と現地調査からみた河西回廊オアシス地域の歴史的構造』を作成した。また、本報告書を大阪大学機関リポジトリ(OUKA)上で、無償かつ無制限に公開した。

4. 研究成果

(1) 出土文字資料調査

重要なコレクションを所蔵する国内外の機関で、未公開のものを含む多くの資料を調査することができた。とりわけ、原物調査の難しい中国・北京・国家図書館での調査や近年公開が始まったばかりの大阪・杏雨書屋(武田科学振興財団図書資料館)の敦煌文献コレクション(敦煌秘笈)では、これまでに得られなかった、貴重な情報を得ることができた。これらの成果は上記の成果報告書に反映するとともに、本研究の構成員による個々の論文・報告によって公開されている。

(2) 景観調査と遺跡調査

現地での景観・遺跡調査によって、当該地域の全体像を歴史的に把握することが可能になった。とりわけ、2014年の敦煌オアシス周辺の調査では、10世紀前後の敦煌オアシス地域を構成した全てのオアシス城址を調

査した。これらのオアシスは、敦煌オアシス地域の歴史的構造を分析するための材料として適している。なぜなら、これらのオアシスが、10世紀前後に沙州(敦煌)を中心に成立したオアシス国家の主要な領域であり、同時にそれ自身がひとかたまりの地域社会を形成していたからである。極度に乾燥した敦煌オアシス地域の環境下では、人間の居住できる場所は限られており、個々のオアシスとそれらのつながりは地域社会そのものであった。つまり、広大な範囲に点在するオアシスの城址遺跡は、敦煌オアシス地域を歴史的に成り立たせてきた要素を目に見える形で示す重要な資料といえる。なお、これらの現地調査の内容は上記の成果報告書内にその詳細を記録し、公開している。

(3) 河西回廊オアシス地域の歴史的構造についてのモデルの提示

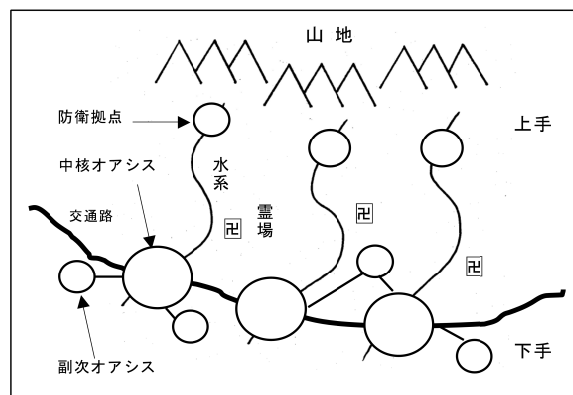


図1 河西回廊オアシス地域の歴史的構造のモデル

出土文字資料調査と主として敦煌オアシスでの現地調査の成果から、山地-水系-オアシスの組合せによって、当該地域の歴史的構造を一つのモデルとして提示した[図1参照]。まず、南方山地とそれを水源とする水系がこの地域を支える基礎的な条件である。極度に乾燥したこの地域では水の確保が容易で、耕地を広く経営できる場所は限られており、条件の良い場所(下手)に規模の大きな中核オアシスとそれに付随するオアシスが作られる。また、南方山地から水系沿いに侵攻してくる遊牧勢力を防ぐため、水系の上流部(上手)に防衛拠点となるオアシスが配置される。そして、これらのオアシスを繋ぐ

交通路が整備される。また、上手と下手の中間地帯では、水系沿いには石窟寺院などの霊場が置かれ、地域の信仰の拠点になる。

(4) 今後の研究進展に向けて

山地-水系-オアシスの組合せによる「タテ」方向の単位は、敦煌オアシス地域だけではなく、祁連山脈に水源を依存する酒泉、張掖、武威等の河西回廊の他のオアシス地域にも共通する仕組みといえる。そして、これらの単位を「ヨコ」方向に結びつける交通路こそが、河西回廊の交通・交易ルートを形成していたと考えられる。今後は、敦煌オアシス地域以外の河西回廊のオアシス地域の現地調査を進め、こうした仕組みのあり方を確認していきたい。そして、このような検討を通じて、中央ユーラシアの乾燥地域で普遍的に通用するモデルの構築を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計11件)

- (1) 坂尻彰宏, 「三つの索勳像 供養人像からみた帰義軍史」, 『敦煌写本研究年報』10, 査読有, 2016年, pp. 309-325.
- (2) 赤木崇敏, 「曹氏帰義軍節度使時代の敦煌石窟と供養人像」, 『敦煌写本研究年報』10, 査読有, 2016年, pp. 285-308.
- (3) 岩尾一史, 「9世紀の帰義軍政権と伊州 - Pelliot tibétain 1109 を中心に」, 『敦煌写本研究年報』10, 査読有, 2016年, pp. 341-356.
- (4) 岩本篤志, 「敦煌本脉書小考 ロシア蔵文献と『平脉略例』を中心に」, 『敦煌写本研究年報』10, 査読有, 2016年, pp. 387-398.
- (5) 赤木崇敏, 「唐宋代敦煌社会の水利と渠人」, 『唐代史研究』18, 査読無, 2015年, pp. 3-26.
- (6) 赤木崇敏, 「敦煌三界寺僧道真と Curtain 王家」, 『内陸アジア言語の研究』30, 査読無, 2015年, pp. 199-222.
- (7) 坂尻彰宏, 「敦煌般次考 10世紀前後の使節とキャラヴァン」, 『内陸アジア言語の研究』30, 査読無, 2015年, pp. 173-197.
- (8) 岩尾一史, 「古代チベットの土地台帳と農牧の区別」, 『日仏東洋学会通信』37・38, 査読無, 2015年, pp. 34-41.
- (9) 坂尻彰宏, 「公主君者者の手紙 S.2241の受信者・発信者・背景について」, 『敦煌写本研究年報』8, 査読有, 2014年, pp. 47-68.
- (10) 佐藤貴保, 「西夏王国における交通制度の復原 公的旅行者の通行証・身分証の種類とその機能の分析を中心に」, 関尾史郎(編)『環東アジア地域の歴史と「情報」』, 知泉書院, 査読無, 2014年, pp. 119-149.
- (11) 赤木崇敏, 「10世紀 Curtain の王統・年号問題の新史料 敦煌秘笈 羽 686」, 『内陸アジア言語の研究』28, 査読有, 2013年, pp. 101-128.

〔学会発表〕(計6件)

- (1) 岩尾一史, 「On the Study of Old Tibetan Contracts」, 絲綢之路出土民族契約研究国際学術論壇, 2015年10月29日, 吐魯番(中国).
- (2) 岩本篤志, 「天理圖書館藏《石室遺珠》中敦煌醫方考」, 博物學與寫本文化: 知識 信仰傳統的生成與構造學術研討會, 2015年06月20日, 上海(中国).

(3) SATO Takayasu , “ Studies of the Xixia Society Based on the Tangut Materials in Russia ” , International Workshop: Central Asian Documents Preserved in the Institute of Oriental Manuscript, Russian Academy of Sciences, 2015年3月24日, 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所(東京都・府中市).

(4) IWAO Kazushi , “ Official Seals of governments in the Old Tibetan Empire ” , Prospects for the Study of Dunhuang Manuscripts: The Next 20 Years, 2014年9月7日, プリンストン(アメリカ合衆国) .

(5) IWAMOTO Atsushi , “ Studies on the Seals of Private Owners Impressed on Dunhuang Manuscripts - Focus on Japanese Collection ” , Prospects for the Study of Dunhuang Manuscripts: The Next 20 Years, 2014年9月7日, プリンストン(アメリカ合衆国) .

(6) 岩本篤志 , 「敦煌文獻與傳存文獻之間以唐代醫藥書《新修本草》和《千金方》為中心」, 国際学術研討會: 重繪中古中國的時代格 - 知識・信仰與社會的交互視覚, 2014年11月9日, 上海(中国) .

〔図書〕(計1件)

(1) 坂尻彰宏 (編), 本研究成果報告書, 『出土文字資料と現地調査からみた河西回廊オアシス地域の歴史的構造』, 2016年, 総ページ数 85.

〔その他〕

ホームページ等

大阪大学・学術情報庫 OUKA, 本研究成果報告書『出土文字資料と現地調査からみた

河西回廊オアシス地域の歴史的構造』情報公開 Web ページ

<http://hdl.handle.net/11094/55405>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂尻 彰宏 (SAKAJIRI Akihiro)
大阪大学・全学教育推進機構・准教授
研究者番号: 30512933

(3) 連携研究者

岩本 篤志 (IWAMOTO Atsushi)
立正大学・文学部・准教授
研究者番号: 80324002

佐藤 貴保 (SATO Takayasu)
盛岡大学・文学部・准教授
研究者番号: 40403026

岩尾 一史 (IWAO Kazushi)
龍谷大学・文学部・准教授
研究者番号: 90566655

赤木 崇敏 (AKAGI Takatoshi)
東京女子大学・現代教養学部・准教授
研究者番号: 00566656

(4) 研究協力者

白 玉冬 (BAI Yudong)
遼寧師範大学(中国)・教授

馮 培紅 (FENG Peihong)

浙江大学(中国)・教授